

決算説明会 質疑応答
(2024年12月期 第1四半期)

[登壇者]

取締役 専務執行役員 CFO

渡部 敏朗 (以下、渡部)

質問者① [Q]: はじめに、第1クォーターの管理ベースといたしますか、目標に対して、受注は通期の計画からすると低く見える感じなんですけど、御社での1Qの計画からするとどうだったのか。あと、利益のところと同じように1Qの計画に対してどうだったか。おそらく為替は追い風だったけど、他が良くなかったのか、この辺りの1Qの評価をまず教えてください。これが1点目です。

渡部 [A]: ありがとうございます。社内の管理ベースの計画に対して1Qの進捗、達成率ということで、受注については、連結全体で言えば、約1割ぐらい未達でスタートしております。売上高についてもほぼ同等、営業利益については、大体2割ほど好転で進捗したというのが全体感となっております。受注については、各セグメントともやはり未達で終わっているわけなんですけども。

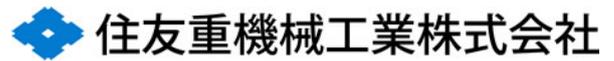
メカトロニクス、それからインダストリアル マシナリー、この辺りはほぼ全社の状況と同じ程度の達成率だったと。若干、ロジスティクス&コンストラクション、それからエネルギー&ライフラインのところの未達率が、少しやや多めだったかなという状況になっております。以上の感じでいかがでしょうか。

質問者① [Q]: ありがとうございます。これ、どうなんでしょう。3カ月前と比べて、特に中国がより厳しくなっているとかなのか、ヨーロッパが思ったより弱いのか、何か地域別でどういう着地だった感じですか。

渡部 [A]: 若干、セグメントごとに違いはありますが、主要なところ、例えばメカトロニクス関係で言うと、やはり欧州関係の主受注が特に弱かったかなと。中国自体は相変わらず、それほどまだ回復が見られないんですけども、もともとスロースタートという想定はしておりましたので、若干それよりも下回ったかなという感じですよ。

インダストリアル マシナリーについて言うと、一番大きく未達があったのが半導体関連です。そこが、特に装置関係のオーダーが、やはりお客様の投資判断が少し先送りされていることもありまして、大きく未達で終わっています。

2024年4月26日（金）



一方、ロジスティクス&コンストラクションについては、主としてショベル関係の差異が大きかったわけですが、北米、それから国内とも、前期と比べますと、前期に特殊要因で受注が増えていたということもありまして、こちらは北米・日本でのやや弱さが出たというところではあります。

あと、エネルギー&ライフラインについては、個別の大物の動き等の影響を受けていますので、こちらはちょっと割愛いたします。以上です。

質問者① [Q]：ありがとうございます。最後、2点目なんですけど、その利益のところ、20%ほど好転したところは、為替によるものが全てということなんでしょうか。受注があまり思ったより回復しないとなると、やっぱり下期以降の売上、利益に効いてくるので、為替の上振れ分を他の要因で相殺してしまうリスクが、ちょっと今出てきているようなイメージなのか。この辺り利益の、為替とそれ以外で分けると、どういう今、進捗なのかというところを最後、教えてください。

渡部 [A]：これも、セグメントごとに少し様相は変わるんですけども。実は、セグメントごとに言いますと、メカトロニクスについて言えば、売上高自体は、ほぼ計画に近い線でした。ただ、利益自体は若干想定したより、売値改善の反映が遅れていたということもあって、やや落ちたと。

一方、インダストリアル マシナリーについては、ほぼ受注残は固まっていますので、売上については、ほぼ計画どおりです。その中で、こちらは逆に利益は改善しています。特に、若干プラスチックなんかは売上未達、利益未達があるんですけど、逆に、このセグメントについて言えば、半導体関連の売上微増と機種構成差等もあって好転要因に動きました。

ロジスティクス&コンストラクションも油圧ショベルがかなり支配的なんですけども、こちらは、やはり受注の動向に近い形で、やはり売上も落ちたということです。要は、量は減った状況なんですけども、やはりおっしゃられるとおり、為替の好転が一番大きく効いたということになります。

あと、若干、固定費の発生等も全般にスロースタートになっているところもありまして、このセグメントも好転含みだったということです。

エネルギー&ライフラインは、これは個別数の増減要因によりまして、若干、大物の売上進捗が遅れているようなところでの減要因の一方で、例えば昨年前期の1クォーターにエネルギープラントですとか船舶で、コスト悪化要因の発生等もあった、そういったものが今回なくなってきていますので、そういった意味での好転が計画に出てきているんだろうなと思っています。

今後の見通しと言われると、確かに現状の受注状況を今後慎重に見極めないといけないとは思っていますけども、確かにこのペースで落ちると、やはり量の減少と為替の円安効果のバランスがどうかというところになろうかとは思いますが。

もう少し、量産系のところの受注の状況を見極めていかないとなかなか判断が難しいかなというところ

かと思います。以上です。

質問者② [Q]: 1点目の質問が、エネルギー&ライフラインの会社計画対比での利益の考え方について確認をさせていただきます。

今年度の利益予想10億円に対して、着地としては概ね進捗率は達成している状況かと思うんですけれども、この背景についても少しご解説いただけますでしょうか。先行費用を使っていくというのが今年度の目論見だったと思いますので、それが発現するかどうかも含めましてご解説いただけますと幸いです。こちらが1点目です。

渡部 [A]: ありがとうございます。エネルギー&ライフラインの年度予想、特に営業利益については2月に予想の説明の中でちょっと触れましたけども、今期はLAESという、液化空気貯蔵の実証プラントの開発費を計上するということで、50億程度の下押し要因が含まれて、予想として10億円利益予想になっています。

1クォーターで結果として約10億円の利益、実績が出ていますけども、そういう意味で、今言ったLAESの実証プラントの費用自体はまだあまり発生しておりません。

ですから、2クォーター以降に実質的な建設の進捗、出来高が上がるのに応じて今後発生するということで、今回、まだこの1クォーターでは一桁台の費用計上に終わっているということもありまして、そういったことで今後、通常ベースの利益は計画に沿って発生すると思います。トータルでは、現時点ではほぼ予想に近い形かなという想定をしております。

質問者② [Q]: 分かりました。ありがとうございます。次の質問は2点目ですが、インダストリアルマシナリーのところの受注について改めて確認させていただきます。射出成形とイオン注入装置の2点で、射出成形のところはご存じのとおり、マーケット全体といたしますか、国内の主要な射出成形機メーカーの受注台数で言うと、YoYで言うと回復傾向もある程度出てきているかと思いますが、それを御社との比較で言うとちょっと弱い感じもしなくはないですが、その辺りの差異をどのようにご覧になっていますかという点と。

もう一つが、イオン注入装置のところでは、海外と国内のお客さん等がいらっしゃると思いますので、その辺りを分けていただいて、どういう引き合い状況にあるのかを言及いただけますでしょうか。

渡部 [A]: 射出成形については、ご承知のとおり、参考ベースの需要の実績もかなり低迷が続いているということで、やや国産のほうは前期に対して、少しこれから持ち直してくるかなという感じはありま

すけども。この1クォーターに対して言えば、前期、ある特殊要因で実際この1クォーター需要が増えていた部分もあって、それも含めると全体の需要動向よりも多く未達の感じが出たかなという気がします。

加えて、成形機の場合は欧州の需要がより冷え込んでいるというか、まだ低迷しておりまして。そちらの状況も加算されているかなという感じです。

あと、半導体関係。まだ1クォーターの段階では、半導体業界全体の市況が回復傾向ですけども、装置の発注自体はまばらな状況がありまして、特にこの1クォーターを見ますと、国内のお客様、特にパワー系のお客様からの動向がまた鈍い状況と聞いています。

ただ、全般的にはそろそろ動きがあるかなという感じにはなっているんですけども。やはり個別のお客様の動向というのは、それぞれ各お客様の事情で変わっているということです。その他の地域で言うと、比較的、中国関係の引き合いというのは、引き続き健在なところはあるんですが、発注のスピード自体は少し落ちている感はありますけども。

いずれにしても、現状の見立ては下期以降にかけて回復に向かっていくであろうと見ておりますので、もう少し状況は見極めたいなとは思っています。

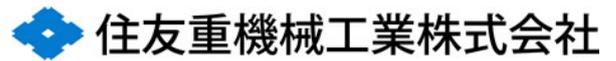
質問者③ [Q]：ショベルの受注なんですが、前年同期比で3割ぐらい減っていると思うんです。他の会社のトレンドに比べて結構落ち込みが大きいと思うんですけど、なんでこんなに違いが起こるのかというのが、何か解説いただけることがあったらと思ったんですが。

御社、クォーターがずれたりとかもあるので、その影響ももしかしたら考えなきゃいけないのかもしれませんが、全体的に需要が逆風なのは分かっているんですが、それにしても、およそ4割受注が減って、だいぶ落ちたなど。為替も結構効いていることを考えると、結構しんどいなと思うんですけど。なんでこんなに他社に負けているんでしょうか。

渡部 [A]：ありがとうございます。確かに、全体の需要の動向、平均的な見方からするとちょっと下が大きく出ているんですけども。1クォーター比較で言うと、実は前年、前期に、例えば国内で言うと価格改定前の駆け込み受注があったとか、あと昨年は結構まだリードタイムが正常化してなかったということで、前倒しの発注が重なっていた時期がありまして。そういった要因も、差としては大きく見える要因の一つあります。

それから、北米についてはやはり同様に、ある意味リードタイム長期化対応ということもあって。前期に多くオーダーが入っていた事情があるのに加えて、足元、北米での在庫が、昨年末ぐらいまでは、まだ充足をしきっていなかった状況だったんですけども、ほぼ充足しつつ、かつ市場の動きが少しスローなど

2024年4月26日（金）



ころも出ているということもあって、この1クォーターは在庫調整という意味合いも含めて、受注が落ちているとわれわれは見ております。

質問者③ [Q]: 分かりました。あと、もう一つだけ。エネのところの1Qは、まだ50億のLAESの話が出ていないのでというお話でしたけれども、それは期初の段階からもそういう予算になっていたという理解でよろしいんですよね。どちらかという、LAESの負担は下期に入る前提になっていたということではないんですよね。

渡部 [A]: もちろん社内の計画上は、そういう発生の計画は立てた状態では作っております。ただ今回の予想全体、年間の進捗で言うと、こういう1クォーターだけ切り出すと、益が先に出ている形になっているということです。

質問者③ [Q]: でも、それは予算どおりの概ね進捗だということではないんですよね。

渡部 [A]: そうです。それで結構です。

以上